



ひびき

鋼製ドラムの国際標準化の進捗状況について

「ひびき」第14号で鋼製ドラムの国際標準化について説明いたしました。その後の進捗状況について報告いたします。

規格の種類

ISO規格案として検討中の鋼製ドラム及び口金システム規格は、概略次の表-1の通りです。

表-1 ISO規格案として検討中の鋼製ドラム及び口金システム規格

タイプ別	THドラム	OHドラム	圧入型口金システム
タイプA	欧米タイプ		C1 欧米型 (トライシュアタイプ)
タイプB	欧米タイプ 海上コンテナ用		C2 欧米型 (リッキータイプ)
タイプC	JISタイプ		C3 JISタイプ
タイプD	JISタイプ 海上コンテナ用		

ISO規格化の進展

- (1) 1996年10月、ICDM標準化幹事国のオランダから、ISO事務局（トルコ）にISO規格化の申請を行いました。
- (2) 1997年2月14日、ISO/TC 122に「鋼製ドラム」として、新業務項目の追加が決定し、規格案検討のため、WG 6が設置されました。
- (3) 1997年6月24日、第1回ISO/TC 122 WG 6会議がオランダ、デルフトで開催され、日本から高橋国際標準化主査が出席しました。
この会議に出席した欧州のユーザー（化学業界）は、二つの内径（566及び571.5mm）は不要であり、国際標準は一本に統一すべきであると強く主張しましたが、ドラム缶工業会は以下の二つの理由でこの主張は受け入れられないと反対しました。
 - ① ISO基準が受け入れられ次第、通産省は日本のドラム業界に短期間内に571.5mmドラムへ切り替えることを義務づけることになり、その結果多額の投資が必要になる。
 - ② 切り替えはマーケット（ユーザー）も納得して行われ

るべきであるが、まだその時期ではない。
ユーザーは、国際標準を一つにするという主張は取り下げましたが、「タイプB」を優先型ドラム（Preferred Drum）と明記することを提案しました。
ドラム缶工業会は、この提案に対して次の理由で強く反対しております。

- ① 永い間、ICDMで検討してきた規格案は、各タイプを同等に併設することで合意したものであり、優先型ドラム（Preferred Drum）を設定することは今回初めての提案であるが、ドラム缶の将来の方向づけに関する重要問題であり、ICDMとして慎重に再検討すべき事項である。
アメリカのドラム缶工業会であるSSCIやヨーロッパのドラム缶工業会であるSEFAの見解も打診しているが、SSCIからは日本の意見に同意する旨の回答を得ている。
 - ② ISOコンテナ輸送に適するという観点では、JIS規格ベースのタイプC（密閉缶）、タイプD（オープン缶）も満足しており、タイプBと同等の扱いをすべきである。
 - ③ 生産数量の点でも、現時点ではタイプBは他のタイプよりはるかに少なく、今後この缶種が圧倒的に増加するかどうかも疑問である。
 - ④ 優先型ドラム（Preferred Drum）の設定については、日本のユーザーにとっても非常に大きな影響を及ぼすことが考えられ、彼らも強く反対している。
 - (4) その他各国から口金位置の公差、口金のねじの種類、プラグ上部の寸法関係の補完、ガスケットの寸法、材質、ラベルリング、プロテクション・リング、口金圧入後の寸法関係の補完等について、追加・修正することになりました。
 - (5) 今後のスケジュールは、以下の通りとなっています。
 - 1) 修正案の配布 平成9年9月
 - 2) 各国のコメント 12月15日まで
 - 3) 次回WG 平成10年1月15日
- 国際標準化の進捗状況について、今後も随時進捗状況を報告していきたいと考えています。

200ℓ 鋼製ドラムは“リサイクルの優等生”

—— リサイクル率 95% ——

地球の限りある資源を守るため、いま地球規模で環境の保全・保護と、資源のリサイクル（再商品化）が叫ばれています。日本でも容器の再利用を促進するため自治体と事業者の役割分担を定めた「容器包装リサイクル法」が平成9年4月1日から施行され、本格的なリサイクル時代を迎えました。

鋼製ドラム缶は使用后、その75%は更生缶メーカーに回収され、残りはユーザーから直接処理業者に回収されています。更生缶メーカーに回収されたものは、残渣処理、整形、内部洗浄、等の更生工程を経て再度使用されます。1.2mm厚のドラム缶は、通常これを繰り返し、4～5回使用し

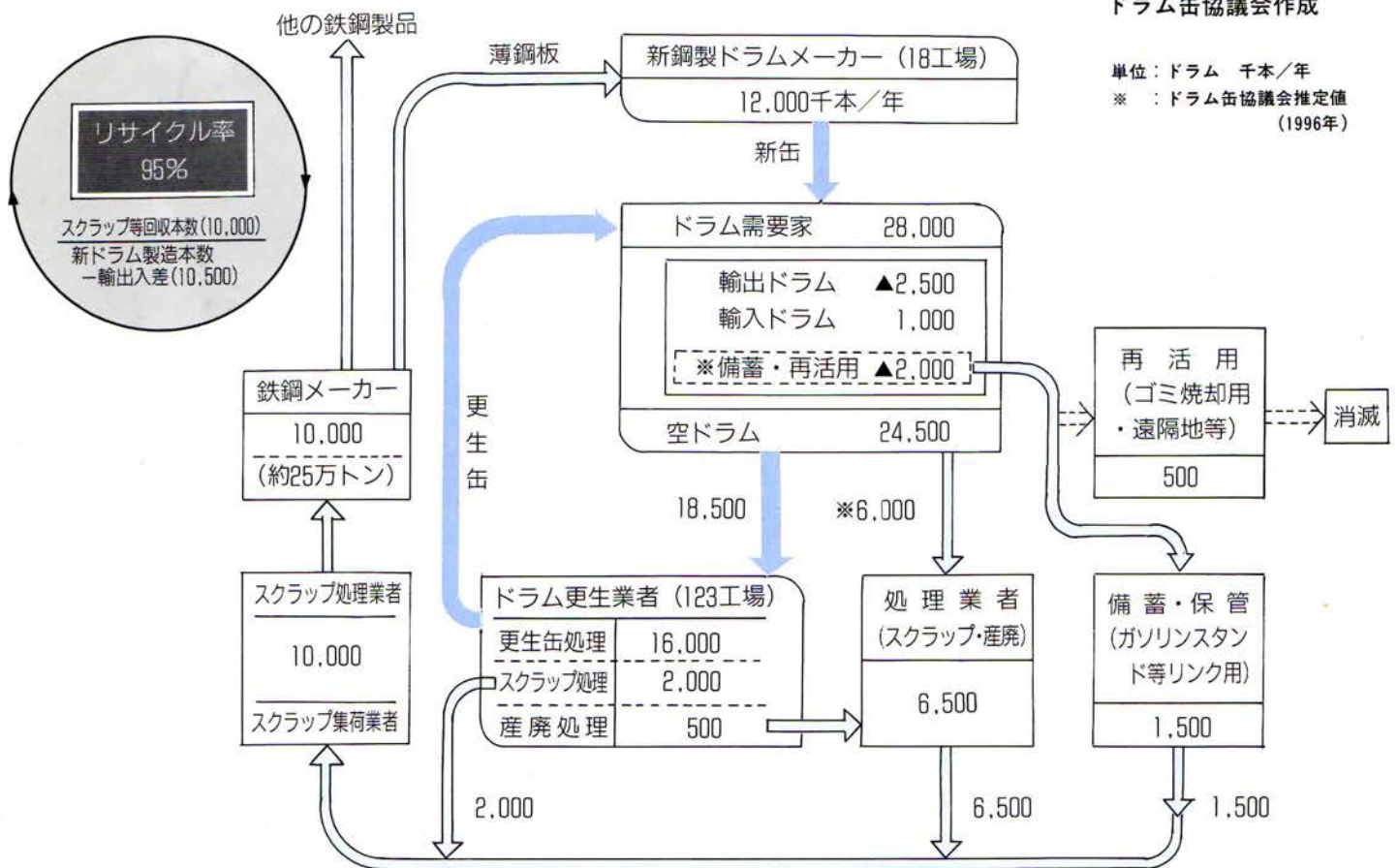
たあとは、スクラップ処理され、処理業者に直接回収されたものと合わせ、製鉄所に運ばれ、新たに「鉄」として生まれ変わります。ドラム缶業界はこのように古くからリユース&リサイクルの循環型システムが確立しており、鋼製ドラムはリサイクルの優等生と言えます。

下図の200ℓ 鋼製ドラムのリサイクル・フローチャートが示す通り、日本では年間製造される鋼製ドラム新缶は約1,200万本、そのうち国内流通量は実質1,050万本であり、鉄鋼メーカーに還流してくる数量が1,000万本であることから、ドラム缶のリサイクル率は実に95%と極めて高いものとなっています。

200L 鋼製ドラム リユース&リサイクル フローチャート

ドラム缶協議会作成

単位：ドラム 千本/年
※：ドラム缶協議会推定値 (1996年)



平成9年度 上半期出荷実績

表-1 平成9年度上半期(4~9月)ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

単位：千本

用途		石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年同期比
缶種								
200	Q 缶	1,003	4,626	404	66	181	6,280	108.7%
ペール		6,707	5,320	433	—	412	12,872	101.3
100	Q 缶	5	103	2		1	111	121.8
50	Q 缶	微	163			8	171	117.6
アス缶型		6	6				12	130.1
その他容量缶		2	315			5	322	91.4
亜鉄板鉛缶	200 Q	6	49	3	微	2	60	92.0
	その他		114	微			114	105.8
	小計	6	163	3		2	174	100.6
スレステン缶	200 Q		8				8	85.3
	その他		2				2	90.9
	小計		10				10	83.3
合計		7,729	10,706	842	66	609	19,952	107.5
前年同期比		103.8	104.1	90.9	104.8	112.4	103.6	—
構成比		19.6	70.6	5.9	0.9	3.0	100	—

(注) 構成比は、出荷トン数の構成比。

平成9年度上半期の出荷実績は、表-1に示す通り、200ℓ缶では前年同期比で108.7%と、数量的には堅調に推移した。この理由は石油、化学などの需要家業界が高水準の生産を維持したためと考えられる。

ペール缶、中小型缶などを合わせた合計出荷本数でも前年同期比107.5%と高水準を維持している。

ただし、平成9年度下半期は、自動車、家電、住宅産業等の生産調整による内需減及び東南アジアの通貨不安による輸出減要因もあり、相当きびしい極面が予想されている。



今年の4月に香港・シンガポールへ旅する機会がありました。香港は返還を間近にしてかなりの賑わいでしたが、何となく騒然とした街だなという印象を受けました。古いビルの上にも壊れそうな木造の住居があったり、

建築中の高層ビルの足場が未だに竹や木材であったのには正直いって驚きました。

それに比べてシンガポールは緑が多くて道路にはゴミもなく、美しく清潔で整然とした感じを受けました。全てが罰金の国とかでタバコやゴミのポイ捨ては勿論のこと、ガムなどは持込さ

え禁止であり、麻薬は15g以上持っているだけで死刑とか。信号待ちしているときに思わず“ポイツ”とやったら旅行者といえども罰金刑。普断が普断だけに日本人にとっては何とも厳しいお国になりそうです。

(若槻博隆)



**森島金属工業
株式会社**

佐倉第三工業団地に移り、丸8年が過ぎようとしております。技術的には大きな変化はありませんが、危険物輸送容器の比重が多くなり、より以上のシビアな容器が求められる時代となり、それに対応すべく製造に心掛けております。

また、最近の受注としましては、ステンレス缶が年々増えてきて、当社におきましても中小型缶として石油、化学、塗料などの各分野で広くご愛顧いただいております。

特殊缶を含む多品種の注文に応じ、広い視野に立って技術向上と発展につとめてまいります。

今後もさらに努力を重ね、明日への飛躍、並びに大きな信頼をモットーに中小型缶専門メーカーとして、皆様のお役に立ちたいと思っております。



**株式会社
山本工作所**

当社は昭和21年創業以来、半世紀にわたり、主力製品であるドラム缶をはじめ、集塵機・チューブラコンペア等の環境機器の製造・販売を行うとともに、大手鉄鋼企業および自動車部品メーカーの協力会社として幅広い分野で生産活動を展開しています。

ドラム缶は昭和24年に生産を開始、同62年5月の本社工場移転に際して最新鋭の設備を導入し、200ℓ缶および10ℓから180ℓまでの中小型缶、特殊缶を含む各種仕様のご注文にお応えし、北部九州に拠点を構え、西日本を中心とする石油・化学・塗料・食品など各分野のお客様に広くご愛用いただいております。平成8年には製造ラインの改善を行い、塗装品質向上と能力アップを図りました。さらに10年には最新の溶接機導入等のリフレッシュを計画しており、より高品質な製品を提供できる体制強化に取り組んでいます。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

A D K 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105


 川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711

 協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371


 鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座9-11-11 ☎ 03-3574-0711

 斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881

 山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680

 新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町4-18 ☎ 03-3861-5285

 ダイカン株式会社
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601


 大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468

 株式会社東京ドラム缶製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511


 東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212

 株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

 日鐵ドラム株式會社
東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2311

 株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

 森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551

 株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

 株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.17(平成9年12月12日発行)

発行人 ドラム缶工業会
事務局長 藤野 泰弘

本誌は再生紙を使用しています。